

2025 6/10

No.2236

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



平塚海岸（平塚市）で初夏の浜辺を彩るハマヒルガオが咲いた。砂浜の浸食などで減少したが、植栽を行い再生した。見頃は6月末ごろまでという。



視点点描	3
平和への思い、新たに	
講演録	4
出版業界の現状と書店の未来 有隣堂社長 松信 健太郎	
特集	8
世界に誇るキラコンテツ アニメ制作現場の現状 低い賃金、制作会社の収益力 製作委から売り上げ還流を	
経済双眼鏡	12
ホテル従業員は外国人実習生ばかり 円安なのに増えている理由	
蝶花楼桃花のNEWS箸休め	13
桃組の根底には挑戦が	
かながわTODAY	14
5月の主な経済ニュース	

### 事務局だより

#### ◇2025年6月定例講演会

6月19日(木)午後1時50分～3時  
ロイヤルホールヨコハマ(中区  
山下町)

講師：ライター・コラムニスト  
稲田 豊史氏

演題：タイバ化する世の中  
～倍速視聴から考える  
Z世代のトリセツ

※1時30分から同会場で当会  
決算総会を開催する予定です。

#### ◇2025年7月定例講演会

7月15日(火)午後1時30分～3時  
県民共済みらいホール(桜木  
町・県民共済プラザビル内)

講師：横浜国立大学台風科学技  
術研究センター長

筆保 弘徳氏

演題：台風ーンショット計画  
～台風の脅威を恵に～

※8月定例会は、28日(木)午  
後2時30分から、麒麟ビール  
横浜工場(横浜市鶴見区生  
麦)の見学会と同工場長のプレ  
ゼン、暑気払いを行う予定です。

【お知らせ】2024年度決算総会は  
6月19日(木)午後1時30分から、ロ  
イヤルホールヨコハマで開催予定  
です。総会後に6月定例講演会を  
開催します。

# 視点 点描



## 平和への思い、新たに

後、母親が消えたこと―。

小学生の頃、母から聞かされた話は今でも鮮明に覚えている。「自分だったかもしれない」と言う母とともに、中国残留孤児のテレビ報道もよく見た。壮絶で波瀾万丈な母の半生を思う時、戦争の理不尽さに震えるほど怒りを覚える。

戦後80年。節目の年を前に日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、代表委員の田中熙巳さんが授賞式で「核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と訴えた。とてもシンプルな願いなのに、人類はいまだ達成できない。それどころかウクライナ、ガザに続き、パキスタンでも衝突が起きた。ストックホルム国際平和研究所の発表によれば、2024年の世界の軍事費（支出、一部推計）は前年比9・4%増の2兆7180億ドル（約390兆5千億円）で過去最

高を更新した。

横浜大空襲があった5月29日に神奈川新聞は特別紙面を作った。1945年のこの日、米軍のB29爆撃機500機超が横浜上空から大量の焼夷弾を投下。中区、南区、西区、神奈川区を中心に横浜は炎に包まれ、一説には8千人近くが亡くなったともいわれる。中堅・若手記者が中心となり、資料を集め、多くの経験者に話を聞いた。

あの日何があったのかを後世に残すことは地元新聞社の使命の一つだ。平和を守るために出来ることは何か、考えるきっかけにしてほしい。そんな願いを込めた。

私の母も含め、戦争経験者の高齢化は一段と進む。だが、今ならまだ間に合う。証言に耳を傾け、平和への思いを新たにすると、そんな夏にしたい。

（神奈川新聞社編成部長・

小野 たまみ）

当時5歳だった母の記憶は断片的だ。満州（現中国東北部）の家

には家政婦が大勢いて、母親（祖母）は一切家事をしなかったからか、手が白く、ともてきれいだったこと。満鉄（南満州鉄道）に勤めていた父親（祖父）が亡くなり、社葬の時に着せられた黒のベルベットのワンピースが三姉妹お揃いだったこと。旧ソ連兵が銃を構

えて突然自宅に入ってきたこと。

「ソ連兵に襲われるから」との理由で丸刈りにされたこと。おしゃれだった母親がもんぺ姿になって必死に満州から引き揚げてきたこと。途中、乗り込んだ列車には壁がなく、速度が上がると多くの乗客が振り落とされたこと。やっとの思いで日本にたどり着き、亡くなった父親の実家に身を寄せた直